

【From Kobe 2021 11月から師走へ 深まりゆく秋 神戸便り】

深まり行く秋から冬へ 神戸の便り

2021.11.20.

収録 ポストコロナの時代の模索が始まっています

我々一人一人 今何をすべきなのか・・・



コロナ禍も収束の兆しの中 神戸秋の便りをと思いながら、もう師走の足音がすぐそこに。
随分おくらせていますが、遅ればせながら 深まりゆく 2021 神戸の秋便り



紅葉した神戸わが町須磨 若草の丘・横尾道・名谷・妙法寺周辺で 2021.11.20.

神戸の街・山も真っ赤に色づき一機に秋色に。丘を真っ白にして野路菊の花が咲いて秋送り
コロナ禍も何とか収束の兆しが見えてきました コロナ収束はみんなの願い
はやく日常の生活を取り戻したいと気分も新た
前向いて!! と自らを奮い立たせています。

新型コロナウイルスワクチンの接種を2回終えた人の割合が人口の5割を超えコロナ禍も収束の兆し
緊急事態宣言も解かれ、街には少し活気が戻ってきた 11月街路樹が色付き、街角にはほのかに金木犀の香りが
漂い、気持ちも新た。

緊急事態宣言解除と共に With コロナ・ポストコロナの時代への動きも急加速

遅れに遅れたホームページ更新 神戸秋の便りを早くと思いながらも、もう師走の足音がすぐそこに。

特にトピックスありませんが、衆議院選挙・政権も交代。

毎日聞くコロナ感染者数も急減し、医療崩壊も何とか着実に緩和の方向。

まだまだ油断はできませんが、コロナ収束への道がチラチラと。

ホッと一息ですが、日本も世界もそして 巷の空気も一変して、「with コロナ・ポストコロナ」の言葉とともに、
抜き差しならなくなっている地球温暖化の歯止め 低炭素社会実現への舵を切る。

このコロナによる命の危険とともに日常生活・経済・雇用が混乱している中で、すべて同時進行で勧めねばならぬ
激動の時代の到来。まさに転換点。

なにか時代の転換点にいるとの予感。常に頭に重苦しくのしかかっている閉塞感・不安感がこれだ。

もう自分の時代ではないと感ずることも多いのですが、とにかく 生き延びてゆかねばならぬ。他人任せに出来
ない田舎で、ひとりでは何も出来ない焦り。

仲間みんなでスクラムくんで この激動の時代 前向いて、元気に生き延びねばと。
遅れに遅れたこの秋の神戸の秋便り。
皆さんにどう写っているかわかりませんが、思いつくまま 勝手な秋日よりです。



西六甲山上の縦走路から眺めた神戸の街・大阪湾の景観

平成 30 年間の時代を振り返って 平成 30 年の春 小林喜光氏の指摘

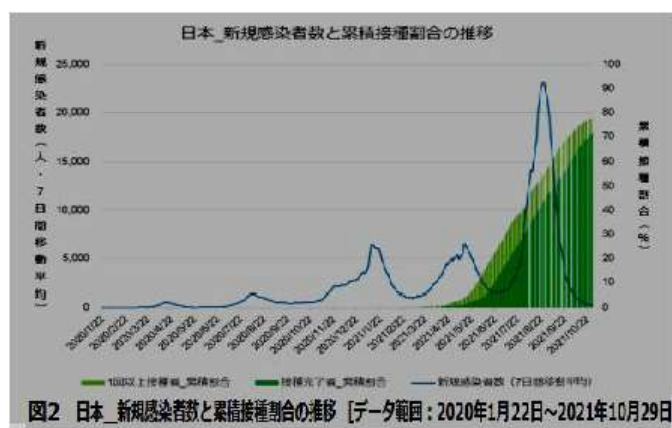
「国家の未来図が描かれないままの政治

日本は心地よいゆでガエル状態 カエルはいずれ煮え上がる」

コロナ禍の中で見えてきた日本の状況はなにも変わっていない

今もそんな言葉が日本にも当てはまる

このコロナ禍の中で 今一度 この小林喜光氏の指摘を噛み締めよう



コロナ禍も収束の兆しの中 コロナ収束はみんなの願い はやく日常の生活を取り戻したいと

この間衆議院選挙もあり、菅内閣から岸田内閣へ政権も交代。

でも なんとはいえぬこの一票の軽さ。どんどん取り残されていると感じるやり場のない無力感

緊急事態宣言解除後も状況は大幅に改善 落ち着いた推移に新感染者数そして重症患者数も激減へ

医療崩壊が叫ばれた医療現場もほっと一息 でも欧米や韓国では第6波流行の兆しも・・

落油断大敵 一機に緩めるわけに行かないが、落ち着いている今だからこそ、第6波への備えも含め、やるべきことを具体的にみんなが取り組まねばならぬ時代に。

また地球規模でみんなが取り組まねばならぬ低炭素社会実現のアプローチも待たなし。

同時並行で、手を緩めるわけにゆかぬこの激動の荒波。

やること・思いはひとそれぞれ でもあなた任せではどうにもならぬ。 我が身に必ず降りかかる。

さあ どうすれば よいのか・・・・・

with コロナとともに 保健所・医療現場の改善・日常生活・経済の再構築

言葉は判るのですか またぞろ 中身が全く見えぬ状況が腹立たしい。

理由は明確ではないが、急激に新規患者数・重症患者数も激減。

医療崩壊と言われた病床逼迫の事態も大きく解消され、11月にはいっても全国的に第6波の兆しもなく、穏やかな感染推移が続いている。この急激なコロナ患者数激減の理由は色々言われるが、明確な理由はわかっていない。

一方世界を眺めるとヨーロッパ・韓国など第六波が始まっており、日本でも気を許せぬ状況が垣間見えるが、厳しい自己行動規制や度重なる緊急事態宣言規制で、ずたずたになった日々の生活・経済・雇用の再建も急務。

with コロナ コロナ対策と経済の再建が声高に叫ばれているが、

その実 全く中身が見えない政治。

なんでもかんでも ほうかむりの仲間政治から脱却しないと

それこそ日本は国際社会から見放され、最貧国へ成り下がる。

実例で言えば、いまや 日本は韓国だけでなく東南アジアの各国にも負ける所得水準に。

先進国が軒並み所得水準を 2.5 倍にのばしている中 日本のみが所得水準が伸びていない。

韓国や東南アジア諸国もまた軒並み所得水準をのばしているのに・・・・・・

日本人だけが未だにそれを認識していない。

ぐるりと回りを見渡し、何も変わらぬホッとするが、

最近は何にか おかしいぞと感ずることも多々垣間見える。

2019年3月掲載の小林喜光氏の指摘した「心地よい、ゆでガエル状態」の言葉が頭をよぎる

◎ 2019年3月に掲載紹介した小林喜光氏の指摘状態が今も続いている現状

経済同友会代表幹事 小林喜光氏 <インタビュー>記事 転記ご紹介

「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか

<https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/2019mutsu/fkobe1903kobayashi.pdf>

小林氏はこう指摘する

心地よい、ゆでガエル状態なんでしょう。

日本全体は挫折状態にあるのに、挫折と感ずない。この辺でいいやと思っているうちに

世界は激変して 米中などの後塵を拝しているのに、自覚もできない。

カエルはいずれ煮え上がるでしょう

● 国家の未来図が描かれないままの政治が与野党含めて続いてしまったためです。

今さえよければ、自分さえよければ、という本音の中で、国民も政治家も生きてきた。

周りが敵ばかりのイスラエルや、覇権を維持するためには科学を前に進めなくてはならない

米国などと違い、皆で楽しく生きていきましょうという空気が取り巻いて敗北を自覚しない。

運動会で「みんな一緒にテープを切りましょう」と競争自体を忌み嫌った時期もあった国だから

無理もない

安倍政権が残した功罪は極めて大きい。

仲間・お友達政権 国際競争・働き方改革と称した大企業偏重の非正規労働の推進が中間層をなくし、格差助長をまねき、今の社会全体をおおう閉塞・不安社会を作り出した。

まさに「心地よいゆでガエル」状況を演出。それが管政権にひきつかれてきた、

新しい岸田内閣も with コロナ コロナ対策と経済の再建が声高に叫ぶが、旧態依然 同じ体質か???

後手後手のコロナ対策が誰の眼にもミエミエだったのに、

それを教訓とした具体的な施策が組み込まれず、

またぞろ バラマキ実効性のない丸投げ対応が続く。 バラマキは即効でなければ・・・・・・

脱炭素社会・新しい産業創生と地域産業育成と大企業乗っかりの口先だけではどうにもならぬ。

激動の with からポストコロナへ そしてもう抜き差しならぬ脱炭素社会で生き抜かねばならぬ日本
もう老害の政治・経済のリーダーたちや TV ニュースに期待無し。

早くリタイや願いたい。

若者たちは心地よいゆでガエル状態から目を覚まし、現状打破へ立ち向かえと

想いは人それぞれ でも地球時代を生きる激動の今の時代

小林喜光氏の言葉をもう一度噛み締めてみたい

高度成長をもたらした田中列島改造論・池田所得倍増論の時代・安保に立ち向かった学生運動の時代

なにかそんな熱気溢れた時代の空気も懐かしい。

勝手な放言お許しください。でも、後期高齢者の仲間入りして 見る世間も本当に狭くなりましたが、確実に激動の時代はやってくる。

孤立せず あなた任せにせず スクラム組んで頑張らねばと

西神戸・東播磨 秋の風物詩 2021

深まりゆく秋の花だより コスモス・秋のバラ・山腹を真っ白に染める野路菊

あまり良い出来ではありませんが、毎年ずっと掲載してきた西神戸・東播磨の秋の風物詩の花だより

ずっと動けずいましたので元気に動き出したことに、思いはひとしお

コロナ禍の中 ホットと骨休め 街を離れて心地よい秋の風を感じながらの神戸の秋の花巡り



足骨折で歩けなかった夏 そして思い出いっぱいこの今秋 お許しください

深まりゆく秋 10月18日コスモス満開の報に加古川西岸 里山に広がる田園地帯へ

久しぶりの原チャリ駆けての加古川市志方のコスモス畑へ

西神戸から東播磨の田園秋の風物詩 心地よい秋風にそよぐコスモスに 今年も出会ってきました。

前回最低点だった免許更新の認知症検査も仲間に教えてもらった虎の巻で無事クリアー。

バイクにもまだ乗れるぞと。

忘れかけていた小林旭の歌が聞きたくなって 小林バージョンのBGM Bも作って 愉しんでいます。

また、足踵骨折退院して約3ヶ月 近くの横尾道や山麓バイパス沿いの丘の散策路など足慣らしの walk でやっ
と坂道もok。日常生活には困らぬ状況に。

11.13.には 青な空キラキラ光る須磨の海 約15000歩ほどの山歩き walk。

須磨 高倉山-鉄拐山-旗振山 山上の散歩道を歩きました。

まだ長く歩くと少しアキレス腱が痛みますが、やっと山歩きができる状況に。

根っからの風来坊

まだまだ足も動くし、好奇心旺盛 仲間にも出会いたい。

また、一つ 嬉しい日常を取り戻せました。

本当に随分長かった・・・・。今後とも よろしくおねがいします。

2021.11.20. From Kobe Mutsu Nakanishi

2021 私の秋送り 友を想い浮かべて 横尾山 山腹を真っ白にして咲く野路菊 2021.11.11.

11月の半ば横尾山山腹にノジギクの花が咲きだすと丘に登り、
逝ってしまった仲間 先輩諸氏 知人を思い浮かべつつ、友を悼んでいっときを過ごす
今年はコロナ禍の中 想いはひとしお



■ 脱炭素社会についての新聞やインターネット記事もずいぶん多く掲載されるようになりました。

今回は整理掲載出来ていませんが、お許しください。

ポスト Corona の時代への始動 もうタイムリミットに来ている脱炭素社会構築の激動の時代
其の中で、日本はどうなるのか 掛け声ばかりで、具体的な実践ロードマップやマイルストーントーンがなく
取組現況がブラックボックスの計画など幾つぶち上げて意味がない。

「安全・安心・持続可能」と最後につければ、何でもかんでも具体的な説明責任を果たしたとって人もある。
一昔前の「IT・AI」と同じで、あまりにも付け焼刃。 胸には「持続可能な開発目標（SDGs）」のバッジが躍っ
ている。原料から製品まそして流通販売までトータルとしての脱炭素社会構築はあなた任せの記事も多い。

気になるエネルギー源の根幹を担っている石炭火力発電や鉄鋼生産プロセスにおける脱炭素技術の取組。
脱炭素せねばならぬ量が多いだけに、一期にとは行かず、減炭素量の取組との評価で 目に触れぬことも多い。
また 原子力の安全性も本当にどうにもならぬのか・・・。

これらの分野で今取組んでいる地道な脱炭素・炭素排出低減の技術が成功すれば、
軽減できる炭素量が多いだけに世界の脱炭素社会構築にも大きな役割を演じることができる。
今回も幾つか眼にしましたが、まとめられませんでした。

また、日本やアジアとヨーロッパ・アメリカの取組に大きな相違 温度差を感じています。

最近 それに着目した記事も出回りだした。

地域に存在する事情を直視しないで、何でもかんでも西欧ではうまくゆかぬ現実にも着目せねばと。

そんな鉄鋼・電力・原子力の取り組みにも目を向けて フォローしたいと思っています。

2021.11.20. Mutsu Nakanishi

真っ青な空 キラキラ光る須磨の海 須磨 高倉山-鉄拐山-旗振山 山上の散歩道 2021.11.13.



西六甲山上の縦走路から眺めた神戸の街・大阪湾の景観



眼下に広がる須磨浦から神戸の街 旗振山山頂より 2021.11.13.

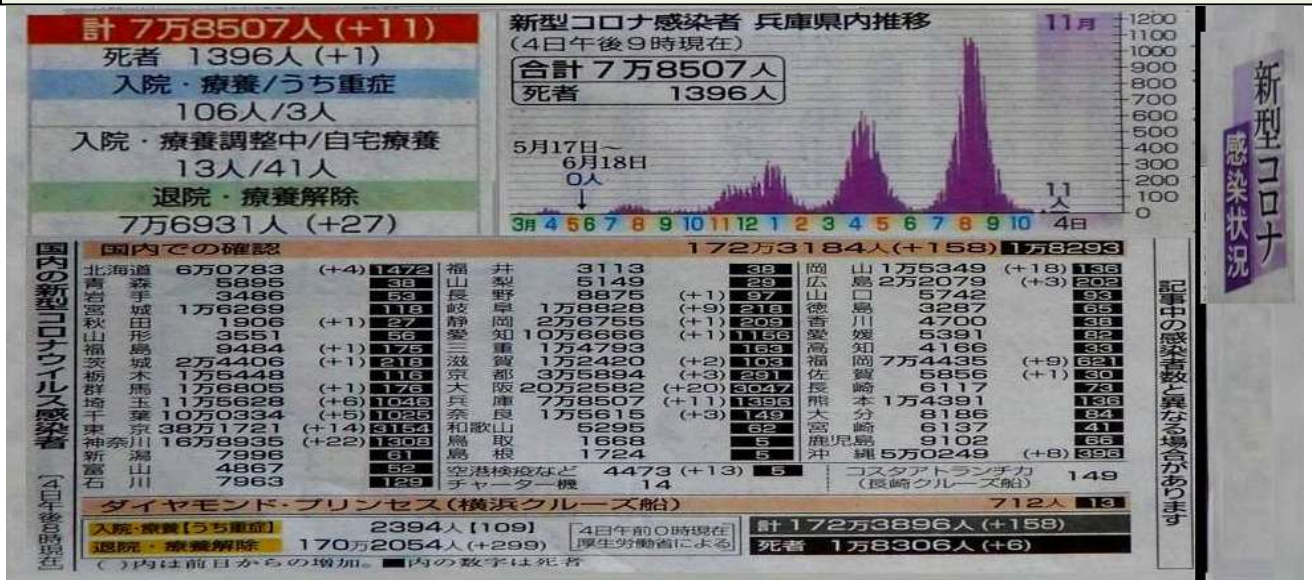


2021.11.13. 秋の夕暮れはつるべ落とし 高倉山から眺める夕日



2021.11.13. 群生するウバメガシの樹林の中の縦走路
ネケ井より 出会いたかつたウバメガシの樹

From Kobe 11月・12月初旬 深まり行く秋から冬へ 神戸の便り
 収録 ポストコロナの時代の模索が始まっています 今何をすべきか
 我々一人一人は今何を・・・ 気になった11月の新聞・インターネット記事より



2021.11.4.現在 新型コロナ感染状況

緊急事態宣言解除後も状況は大幅に改善 落ち着いた推移に新感染者数 そして重症患者数も激減へ
 医療崩壊が叫ばれた医療現場もほっと一息 でも欧米や韓国では第6波流行の兆しも・・・
 落油断大敵 一機に緩めるわけに行かないが、落ち着いた今、やるべきことを具体的に
 保健所・医療現場の改善・日常生活・経済の再構築へ

日本の弱点 コロナ禍のに医療崩壊・コロナ施策で見た利発的対策の破綻の数々。

本当に日本の指導層・社会組織は我々一人一人に寄り添ってくれせるのだろうか・・・

明日は我が身の不安がついてまわる。裏と表で済まされては困る数々。

かっこいい言葉でその実 非正規の闇を無制限に広げてきた今の日本社会

当事者意識と実践の弱い硬直化した社会・経済指導層の若返り展開の中で、疲弊した日本の社会を立て直す基本は
 安定した雇用を軸にした社会構築を進めねば、日本は国際社会からも置いてきぼりになるだろう。

あまりにも現実を直視しない日本の社会。 コロナ禍で見た現実には蓋をしてはならないと思います。

◎ 「無症状に4人に1人が肺炎に」 和歌山県の追跡調査で極めてクリアーになった

自宅待機・ホテル隔離の 現実

“無症状の4人に1人が肺炎に” コロナ感染者を追跡調査 和歌山

2021年10月29日 15時49分

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20211029/k10013326721000.html>

新型コロナウイルスの陽性者をすべて入院させる措置をとっている和歌山県が第5波までの県内の感染者5000人余りを追跡調査した結果、検査の時点で無症状だった人の4人に1人がその後、肺炎になっていたことがわかりました。

県は無症状でも容体の変化に早期に対応できる態勢づくりが必要だとしています。

和歌山県は新型コロナウイルスの陽性者に対して全国で唯一全員を入院させる措置を続けていて、第5波までに県内の病院に入院した5169人の追跡調査を行いました。

その結果、

検査の時点で無症状だった人は1199人いましたが、このうち4人に1人に当たる331人がその後容体が悪化し、肺炎と診断されていたことがわかりました。

さらに肺炎になった人のうち76人は酸素の投与が必要となるなど中等症以上で、20人が死亡したということです。

県は変異ウイルスの影響などもあり当初は無症状でも容体が急速に悪化する危険性が示されたとして、容体の変化を早期に発見し対応できる態勢づくりが必要だとしています。

2021年10月29日 NHK ニュースより

コロナ対策を統括する和歌山県の野尻孝子技監は「これから想定される6波に向けて診断時に無症状だからと油断せず、患者の重症化と感染拡大を防ぐため早い段階から保健所や医療機関が関わっていくことが重要だ」と話しています。

「症状の変化を把握できる態勢づくりなどが必要」

和歌山県は全国で唯一新型コロナウイルスの陽性者をすべて入院させる措置を続けていて、無症状や軽症者を含めたすべての患者について病状の変化を追跡したデータを感染対策に活用しています。

今回の結果について和歌山県の野尻孝子技監は「最初に無症状でもそのまま経過するわけではなく5日から1週間で肺炎を合併して急に悪くなる。そういうことがあるので安心はできないということが網羅的なデータから浮かび上がってきた」と話しています。

そのうえで検査の際に無症状で自宅療養となった場合でも症状が悪化することを想定し、感染者側からの訴えを待つのではなく保健所側からも積極的に感染者に接触して、症状の変化を把握できる態勢づくりやコロナ病床の拡充を進める必要があると指摘しました。

また第6波に向けた注意点として、

野尻技監は「ワクチンを2回接種した人が増えると無症状者や軽症の陽性者が増える可能性がある。無症状の人から医療機関や高齢者施設に持ち込まれて集団感染が起きるリスクも見据えて対応していくべきだ」と、注意を呼びかけています

インターネットより採取



◎

折しも、アメリカ バイデン政権は「インフラ整備に8年間で220兆円投入の計画発表」

ポストコロナの社会の経済の他立て直しに莫大な金をつぎ込み、全米州の基本インフラの整備を main 政策として打ち出した。

新しい産業を起こす基本インフラ整備と全米での雇用巻き起こし政策と見える。すごい規模だ。

バイデン政権は3月に新型コロナウイルスに対応した200兆円規模の経済対策を成立させていて今回は第2弾の大規模な財政出動。

他国でも.....

一方 日本では 未だに掛け声・丸投げの脱炭素社会とバラマキの財政出動政治の構図が続いている。あなた任せの構図が頭に浮かぶ。

コロナが落ち着いている今だからこそ、しっかりと検証し、展開せねばならぬ。

ポストコロナで見落としてはならぬ具体的な検討視点とみえるのですが.....

誰もが こそこそ言ってきたことが、オープンにされた。

今しっかりと前向きな展開議論をせねばと思う。

2021.11.1. From Kobe Mutsu Nakanishi

所用でタクシーに乗った。運転手さんの声は心なしか弾んでいるようだった。新型コロナウイルスの感染者が激減していることに触れて「これがあと1週間続いたら、もう大丈夫やね」◆ちよつとじんときた。このまま取まるかも...そんな期待のはかなさを運転手さんだつて知らぬわけはない。恐らくは感染者の増一減に目を凝らし、日々を過ごしておられるのだろう。「大丈夫」と祈りながら◆それにしても、なんでこんなに減ったのか。ワクチン接種が進んだから。マスク着用など基本対策のおかげ。ウイルスの感染力が弱まった。謎の周期性。いろいろ理由は語られるが、本当のところは分からない◆「小春日和」。時候の言葉が浮かぶ。気象解説者、倉嶋厚さんの本によれば昔は「冬の愛想」といわれたそう。しばしの春を思わせる今ごろの穏やかな天気は、寒い冬からのさやかな贈り物でもあったらしい◆政府はきのう、コロナ「第6波」対策をまとめた。3回目のワクチン接種のほか、重症化を抑える飲み薬をできるだけ早く、多く確保し、入院病床も増やすという。現場で働く人たちの手当ても厚く願いたい◆小春のうちに備えを急ぎ、冬の風を抜ければきっと本当の春が見えてくる。過去の失敗は、繰り返すまい。 2021.11.13

2021. 11. 13. 神戸新聞朝刊コラム「正平調」より

